

# ぶなの森

## 第84号

令和2年 10月15日発行

発行：社会福祉法人常成福祉会  
丹沢自律生活センター  
神奈川県秦野市菩提 1711-2  
発行責任者：センター長 伊藤崇博  
印刷：丹沢自律生活センター  
ホームページ：[www.jousei.or.jp](http://www.jousei.or.jp)  
アドレス：[tanzawa@jousei.or.jp](mailto:tanzawa@jousei.or.jp)

### 法人設立三十周年のご挨拶

当法人は、平成二年七月から事業運営を開始し、今年で三十周年を迎えることができました。ひとえに、地域の皆様、関係各所からのご支援の賜物であり、ここに深くお礼申し上げます。

本来であれば、毎年十月に開催する、「丹沢自律生活センター秋まつり」において、地域の皆様方と一緒に祝いするところですが誠に残念ながら、コロナ禍により開催を中止いたしました。

世の中が平穏を取り戻し、再び秋晴れの空の下で開催できる日を心待ちにしております。それまで、職員一丸となって、この試練を乗り越えていく所存です。今後とも温かいご支援・ご理解を賜りますようお願い申し上げます。



## 第30回 丹沢自律生活センター「秋まつり」は中止



毎年恒例の「秋まつり」について、このコロナ禍の状況を鑑み、中止とする決定をいたしました。例年、地域の皆様や企業様の多大なるご支援ご協力の元、沢山の方にご来場いただいておりますイベントでしたが、感染拡大防止の観点から今年度は中止となりました。

## 市内一斉清掃・法人清掃

9月の市内一斉清掃と秋の法人清掃を行いました。周辺道路や神社の清掃・草刈など毎年行っていますが、年々「ヤマビル」の生息が拡大していると実感しています。キレイで安全な里山を保全するため、また地域に貢献できる活動として継続して行きたいと思います。



# 常成福祉会のキラッと光るひとたち（第1回）

現在、法人ホームページの全面リニューアルを計画しております。本紙とホームページが連動するこの企画は、法人で働く120名程の職員に焦点を当て、個性や頑張りがキラッと光るひとたちをご紹介します、その魅力を掘り下げていきます。



法人キャラクター：ふくころ

## ◆Runnerから福祉へ…

大学卒業後、私は実業団ランナーとして、朝夕がむしゃらに神戸の街を走り抜けていました。阪神淡路大震災により、拠点が福岡に移転したとき「俺は生きる！走り続ける！」と強く誓ったのを覚えています。しかし、就職から3年後、新たに就職した優秀な選手によって私の選手生命は絶たれたのでした。その後実家に戻り工場のアルバイトを始めたところ知り合いから声を掛けられ、まるで近所に買い物にでも行くかのように常成福祉会に入職しました。今思えば、不思議なご縁です。

秦野ワークセンターは、  
陶芸、印刷、寝具乾燥を得意とする事業所です



## ◆ワークセンターマジック！！

当たり前のことを当たり前でできる職員、利用者さんや他の職員を自分のことのように思いやる職員、一緒にいるだけで心があたたまる職員がいる！それが秦野ワークセンターの大きな武器です。私は、この胸を熱くしてくれる職場を誇りに思います。笑いに包まれた雰囲気も魅力ですね。「ワークセンターに行きたくて仕方ない」と利用者さんに思って欲しい。「仕事に行きたくて仕方ない」と職員に思って欲しい。「ワークセンターが楽しすぎて家に帰りたくない」と皆に思って欲しい…こんな事ばかり考えて毎日ワクワクしながら、その目標に向かって仕事をしています。



山崎孝寛さん  
秦野ワークセンター所長  
入職：23年  
趣味：マラソン  
特技：DIY



## 「彩り茶房」のご案内

秦野市保健福祉センターで毎月開催しております「彩り茶房」について、現在10月以降の開催も中止としております。今後の再開等予定につきましては、法人ホームページや広報誌等でお伝えしていきますのでご了承願います。

## あとがき

今号は広報誌始まって以来のA4単版でお送りしました。この状況下でイベントの中止や出店の取り止めなど「暗い」情報しかお伝えできないため、思い切って当法人の職員紹介をさせていただきました。

唐突な紙面内容ですが、ここから法人事業の魅力をお伝えできれば、と思っております。